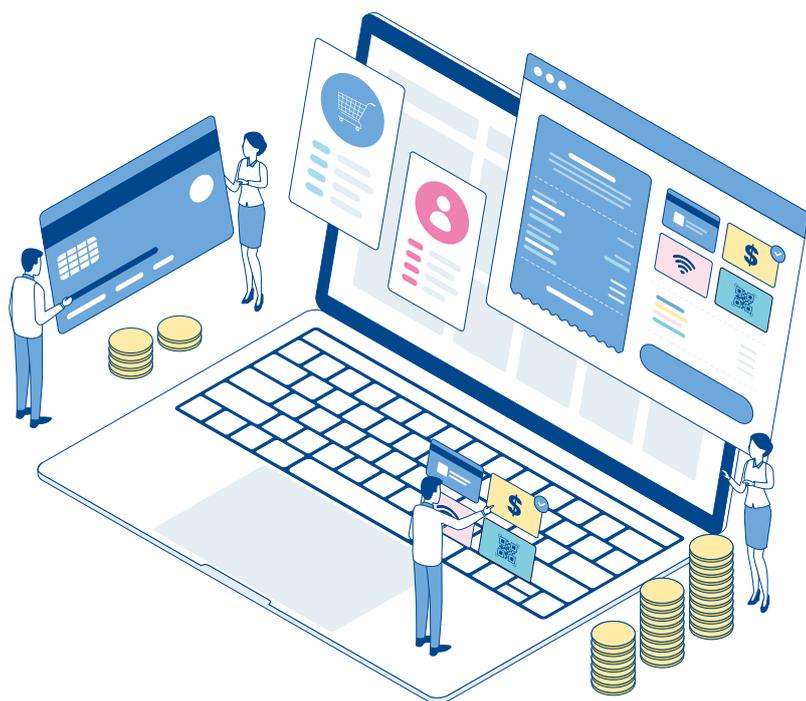




SEMINAR AFTER REPORT

2024.3.14 開催

脱・手作業！ロボットに任せる"新しい"電帳法対応
～RPA×文書管理で自動化するには？～

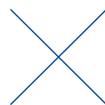


OVERVIEW

2024年1月に完全義務化された電子帳簿保存法への対応は、経理のみならず営業やIT部門に大きな影響をもたらしています。法改正には対応済みである一方、実際の業務プロセス上の課題や工数増加を改めて認識したという組織も多く存在します。

そうした中で開催された本セミナーでは、ウイングアーク1st株式会社の鈴木 萌衣 氏と、UiPath株式会社の 加藤 雄大 氏をスピーカーに招き、帳票電子化における課題や、電子帳票プラットフォーム「invoiceAgent 文書管理」と自動化プラットフォーム「UiPath」を組み合わせることで電帳法やインボイス関連業務を効率化させるユースケースを、デモを交えて解説。法改正を契機にした生産性向上のヒントを紹介しました。

またSCSKからは、セッションで紹介された「invoiceAgent」「UiPath」の導入支援サービスや、電帳法対応に必要な文書管理導入支援サービスなどを紹介しました。



CONTENTS

帳票プラットフォーム「invoiceAgent」で始めるデジタル化 4
～法対応と業務効率化をUiPath連携で実現～

「増える仕事を楽にする」 5
～UiPathが目指すAI×自動化の方向性～

事例及び導入支援サービスのご紹介 6



SCSK株式会社
プロダクト・サービス事業グループ
ITインフラ・ソフトウェア事業本部
データ・ミドルウェア部 営業課
鈴木 輝彦 氏



ウイングアーク1st株式会社
営業本部 営業統括部
第2営業部 第2グループ
鈴木 萌衣 氏



UiPath株式会社
パートナー営業本部 第二営業部
Partner Sales Executive
加藤 雄大 氏

帳票プラットフォーム「invoiceAgent」で始めるデジタル化

～法対応と業務効率化をUiPath連携で実現～

WingArc 1ST

ウイングアーク1st株式会社
営業本部 営業統括部 第2営業部 第2グループ
鈴木 萌衣 氏



2023年10月に開始されたインボイス制度や、2023年12月末に宥恕期間が終了し、2024年1月1日から義務化された改正電子帳簿保存法の電子取引要件への対応により、適格請求書の発行・受領および保存をはじめとする業務負担増大が各企業の課題となっています。

当社が行った「企業間取引の電子化に関する実態調査」の結果によると、企業間取引において、電子帳票の保管、管理、受領を「異なるツール」で運用している企業は、半数を超える55.5%にのぼることがわかりました。さらに、その中の90.8%の企業が業務効率の低下を実感しており、76.6%の企業が情報漏えいリスクの高まりを懸念している結果となりました。

同じ会社内でも個別にシステム導入が進んだことで、システムの分断が進行し、業務負担が軽減されず、ミスやトラブルを招きやすい環境になっている現状が浮き彫りになっています。

こうした帳票電子化に伴う課題を解決するソリューションが、ウイングアーク1stの「invoiceAgent」です。invoiceAgentとは、ビジネスでやり取りする帳票を最適化する電子帳票プラットフォームで、次のようなことを可能にします。

- 帳票の電子保管
- 請求書をはじめとする帳票の配信&受領
- インボイス制度/電子帳簿保存法対応支援
- 商取引における様々な契約を電子化
- アナログ文書のデータ化(OCR)

また、電子帳簿保存法にも対応し、文書管理だけでなく、これまで企業が様々な方法で行っていた帳票の配信、受領、OCRを用いたアナログ文書のデータ化などをワンストップで可能にします。

製品ラインナップは以下の4つで、法対応に準拠した電子文書管理を実現するとともに業務プロセスの中で増加する業務負担を軽減し、またガバナンスを強化する機能も備えています。

「invoiceAgent 文書管理」

「invoiceAgent AI OCR」

「invoiceAgent 電子取引」

「invoiceAgent 電子契約」

「invoiceAgent」は、様々なシステムとの連携アダプターを用意しており、「UiPath」とも連携ができます。そのほかにも、Web APIでの他のシステム連携も可能です。

では具体的に、「invoiceAgent」「UiPath」の連携でどのように業務効率化を実現するかを見ていきましょう。

まず、invoiceAgent 文書管理では、いくつかの文書取込方法がご用意されています。電子ファイルや紙文書をスキャンしたPDFの手動アップロードや、WebAPIでの他システム連携のほか、PCやファイルサーバーにある特定のフォルダを監視して、フォルダの中に入ってきた文書をinvoiceAgentに自動アップロードするBridgeサービスという機能もあります。

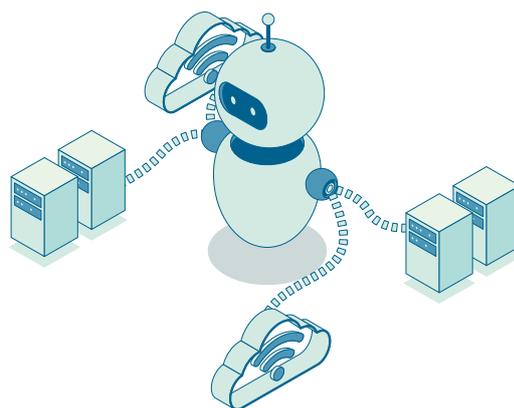
このように取り込んだ文書の内容は、OCRによる自動識別や補正を経てデータ化されます。さらに、後述するUiPathと連携することで、業務フローにおける後続システムへのエントリーも効率化できます。

次に、取引先から受領した請求書をinvoiceAgentに取込み、OCRで読み込み、結果の確認、修正などを担当者が行い、経理確認、会計起票、会計システムに連携するといったケースを考えます。この場合、インボイス制度で新たに発生する「適格請求書項目のチェック作業」「適格請求書発行事業者番号の照合・判定から保管までの一連の作業」の効率化もポイントとなります。

invoiceAgentには、適格請求書発行事業者の判定チェック機能があります。

ここにUiPathを組み合わせることにより、インボイス交付義務取引の判断などもできるほか、請求データとinvoiceAgentに格納された受領請求書のOCR結果を突合し、そのデータを会計システムに連携するところまでも自動化できます。

電帳法対応やインボイス制度対応で発生・増大する業務負担に対して、invoiceAgentとUiPathを組み合わせることによる自動化・効率化をぜひ、ご検討いただければと思います。



「増える仕事を楽にする」

～UiPathが目指すAI×自動化の方向性～



UiPath株式会社
パートナー営業本部 第二営業部
Partner Sales Executive
加藤 雄大 氏



UiPathはもともとはRPAを提供する会社で、現在ではRPAのテクノロジーを軸とした、AI搭載の自動化プラットフォームを提供している会社です。RPA(Robotic Process Automation)とは、一言で言うとPCの操作を自動化するためのツールです。具体的には、PC画面上で人間が操作可能な作業であれば、RPAのプログラムを組むことで自動実行することができるため、人間の作業よりも正確で、高速に処理ができるメリットがあります。

特に、運用が固まっている定型作業については高速処理のメリットが享受しやすいです。たとえば、以下に挙げるような作業はRPAによる自動化がしやすい代表的な例です。

- 入力
- モニタリング
- 転記
- 送付
- 照合
- 集約・加工

特に、インボイス制度対応にフォーカスすると、前述した電子帳票プラットフォーム「invoiceAgent」と、弊社の自動化プラットフォーム「UiPath」を組み合わせることで、作業を高速かつ自動で処理することが可能になります。たとえば、書類の受領側に焦点を当てると次のような自動化ポイントがあるでしょう。

(1) 受領書類に対し、法制度に従った条件確認、適格請求書発行事業者であるかの確認が発生

法対応に伴い、様々な条件確認が発生していますが、頻繁に変化するルールに対し、詳細にチェックを行うことは膨大で、細かい作業が発生します。

(2) システム対応が進んだ場合でも、業務オペレーションは複雑化し、業務負荷やミス発生頻度は高くなる

システム化に成功しても、システムに対応する担当者の負荷は高まります。

UiPathは、既存システム等と連携しつつ、書類受領後に発生する一連の業務を自動化します。さらに既存のシステムや最新のシステムまで様々なシステムとの連携が可能です。

また、電帳法対応では、主に財務、経理で売掛債権管理や現金出納管理といったルールベースの事務作業があり、RPAの適用効果が高い領域と考えられます。既に多くの企業が実際に業務自動化

に取り組み、各業界や業種ごとのノウハウを蓄積しています。ぜひ皆様の会社でもご検討ください。

さらに、RPAとAIを組み合わせることで、自動化の領域は拡大していきます。UiPathは2019年頃より、AIを活用した、ビジネスプロセス全体の自動化のためのプラットフォームとして、製品群を進化させています。

RPAは、上述のとおり、定型化された単純作業の自動化が得意です。一方、AIは、ChatGPTのように、質問に対して答えを生成するような処理が得意です。この2つを組み合わせることによって、日常業務はどのように効率化できるでしょうか。

業務プロセスの多くは、情報取得やデジタル化などの「前プロセス」、分析などの「実際の作業工程」、そして、その結果をレポート等の形で出力して報告する「後プロセス」に渡っていくというのが一連の流れです。

この前後の作業プロセスをRPAが担い、実際の作業工程もAIがサポートすることで、これまで自動化が難しいとされてきた領域にも適用可能性が広がっています。

具体的には、メールを送受信して、その内容を確認し、システムに入力してレポートを作成、報告メールに添付して送信という一連の作業があるとします。RPAの自動化では、「受信したメールの添付ファイルの内容を元にデータを入力し、レポートを出力」するところまでは自動化が可能でした。

これに対し、AI活用の第1段階では、AI-OCRによって「受信したメールを自動的に読み取り、必要な処理を決定。RPAに連携してレポート出力」するところまで自動化が可能になります。しかし、最後の報告メール作成は人間に関わらなくてはならない領域でした。

それが、AI活用の第2段階になると、生成AIを組み合わせることで、第1段階で自動化できなかった「報告メール作成」までも自動化が可能です。

UiPathでは2024年、「Intelligent Document Processing (IDP)」というソリューションに注力しています。メールの文章を単純に読み取るだけでなく、「解釈」を可能にするAIエンジンを開発中で、日本語対応も順次、進めていきます。我々は世界中に拠点を持つグローバル企業ですが、日本市場にも注力し続けており、日本の皆さん向けに、製品のドキュメントや、学習コンテンツを日本語で提供しています。また、ユーザー企業間の交流を目的としたコミュニティや、AIを業務で活用しているユーザー企業の事例紹介ウェビナー等も用意しています。ぜひお気軽にお問い合わせのうえ、ご参加いただけると嬉しいです。

事例及び導入支援サービスのご紹介

SCSKでは、電帳法やインボイス対応を進める企業向けに様々な情報を提供しています。1つめは「SCSK IT Platform Navigator」というサイトで、法人向けのITプラットフォームに関する情報や導入事例を紹介しています。

<https://www.scsk.jp/sp/itpnavi/>



2つめが、「RPA自動化事例ナビ」というサイトで、RPAの活用事例をまとめて掲載しています。RPAで自動化に成功した事例や、RPA製品を選定するポイント、今後AIと組み合わせるとどんなことができるようになるかといった情報が掲載されているので、ぜひ参考にしてみてください。

<https://www.scsk.jp/sp/rpa/>



また、「invoiceAgent」や「UiPath」の導入支援サービスを提供しており、導入前のコンサルから設計、導入、運用支援に至るまで、トータルに支援が可能です。

「文書管理導入支援サービス」では、電帳法関連の導入支援を行うサービスメニューを提供。「invoiceAgent」のサーバー環境構築から、ファイルの取り込み、仕分け、検索など、電帳法に対応したルールの設定を支援します。管理者や運用ユーザー向けに「invoiceAgent」のトレーニングを実施することや、リモートで質問や相談に応える「QA支援サービス」も提供しています。

「RPA導入支援サービス」も提供しており、トレーニングやPoCなどの支援をメニュー化。お客様のビジネス要件に応じた各種支援サービスを提供していますので、何かお困りごとがありましたら、お気軽にご連絡をいただければと思います。



本書記載内容に関するお問い合わせ

SCSK SCSK株式会社
プロダクト・サービス事業グループ
ITインフラ・ソフトウェア事業本部 データ・ミドルウェア部
〒135-8110 東京都江東区豊洲3-2-20 豊洲フロント
E-mail : rpa-sales@scsk.jp

本書記載の社名および製品名は各社の商標または登録商標です。記載内容は、改良のため予告なしに変更する場合があります。